

NACSIS-CAT/ILL

ニュースレター

Contents

(NACSIS-CAT)

- | | |
|---|---|
| 1. 目録所在情報サービスのサービス時間変更 | 2 |
| 2. NACSIS-CAT/ILL 関連マニュアル全文検索の再開 | 2 |
| 3. RDA (Resource Description & Access) に基づいて作成された参照レコードの流用入力における留意点 | 3 |
| 4. 参照ファイルの追加 (イタリア, スペイン) | 4 |
| 5. 雑誌書誌に関する報告・情報源の送付について | 5 |
| 6. NII での目録品質管理 (7) | 6 |
| 7. 総合目録データベース個別版サービスの窓口変更 | 8 |
| 8. コーディングマニュアルの差し替え | 8 |

(NACSIS-ILL)

- | | |
|---|---|
| 9. ILL 文献複写等料金相殺サービス運営費の改定 | 9 |
| 10. ILL 文献複写等料金相殺サービス処理報告 (平成 25 年度第 3 四半期) | 9 |

(教育研修事業)

- | | |
|---|----|
| 12. 平成 25 年度学術情報システム総合ワークショップ (試行) 実施報告 | 10 |
| 13. 平成 25 年度目録システム講習会実施報告 | 14 |

(その他)

- | | |
|--|----|
| 14. 学術コンテンツ・ポータル (GeNii ジーニイ) の終了等サービスの一部見直しについて | 15 |
|--|----|

(付録)

- ・ コーディングマニュアル (付録 1.2 出版国コード表)
- ・ コーディングマニュアル差替



大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

国立情報学研究所

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号
学術コンテンツ課

NACSIS-CAT 担当…………… Tel:03-4212-2310 Fax:03-4212-2375

NACSIS-ILL 担当…………… Tel:03-4212-2320 Fax: 同上

教育研修事業担当 …… Tel:03-4212-2177 Fax: 同上

学術基盤課

システム管理担当 …… Tel:03-4212-2220 Fax:03-4212-2230

URL:<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/>

目録所在情報サービスのサービス時間変更

平成26年1月7日(火)から、目録所在情報サービス(NACSIS-CAT/ILL)のサービス時間を以下のとおり変更しました。

業務用

月～土 0:00 ～ 24:00

日 9:00 ～ 24:00

月末 上記の内 20:00 ～ 24:00 は休止

年度末 上記の内 20:00 ～ 24:00 は休止

検索専用

月～土 0:00 ～ 24:00

日 9:00 ～ 24:00

月末 上記の内 20:00 ～ 22:00 は休止

年度末 上記の内 20:00 ～ 24:00 は休止

教育用・テスト用

月～金 9:00 ～ 18:00

なお、年末年始、法定停電等による臨時的なサービス休止については、NACSIS-CAT/ILL ホームページで広報しますので、随時ご確認ください。

(NACSIS-CAT/ILL 担当)

NACSIS-CAT/ILL 関連マニュアル全文検索の再開

平成25年3月から、セキュリティ上の問題が確認されたため、NACSIS-CAT/ILL 関連マニュアル全文検索のサービスを停止していましたが、平成26年4月から、以下のURLで再開します(URLが以前とは変更となっておりますのでご注意ください)。

URL : <http://catdoc.nii.ac.jp/search/>

(NACSIS-CAT/ILL 担当)

RDA (Resource Description & Access) に基づいて作成された

参照レコードの流用入力における留意点

2010年に発表された RDA (Resource Description & Access, 資源の記述とアクセス) は、英米目録規則第2版 (AACR2) の後継にあたる目録規則です。すでに、米国議会図書館 (2013年3月～) や日本の国立国会図書館 (洋図書) (2013年4月～) では、RDA を目録規則として使用しています。そのため、現在、USMARC では、RDA に基づいて作成されたレコードが主となっています。

NII では、RDA 準拠のレコードを適切にコンバートして参照 MARC に取り込むために、コンバータの改修を行いました。これまで、RDA 準拠のレコードについては、出版に関する情報が PUB フィールドに入らず REM に落ちてしまうという現象がありましたが、コンバータの改修により、平成 26 年 1 月 7 日 (火) 以降に参照 MARC として登録されたレコードにおいては、この現象は解消されています。

しかし、これ以外にも、AACR2 準拠のレコードと、RDA 準拠のレコードには差異があります。現時点で、RDA 準拠の参照レコードから NACSIS-CAT へ流用入力を行う場合には、目録情報の基準 (第4版) の 4.6.2 を踏まえ、以下の点にご留意ください。

- 1) コンバータ改修以前 (2012年6月頃～2013年12月) に参照 MARC として登録されたレコードは、コンバータ改修後に参照 MARC への再登録は行っておりません。そのため、出版に関する情報 (出版地、出版者、出版年) が PUB ではなく REM に入っていますので、流用時に修正する必要があります。
- 2) GMD, SMD については、RDA とは考え方が異なるため、正しくコンバートできていないことがありますので、現物を確認の上、適切なコードに修正する必要があります。
- 3) NACSIS-CAT では、洋図書・洋雑誌についての準拠すべき目録規則は、「英米目録規則第2版 (1988年改訂, 1993年修正, 同2002年改訂, AACR2)」です。記述内容及び表記等について、AACR2 と RDA では差異がありますのでご注意ください。

現在 NII では、RDA の NACSIS-CAT への適用について検討を行っております。今後の対応については、NACSIS-CAT/ILL ニュースレター、ホームページ等で広報します。

RDAに基づいて作成された書誌 (参照 MARC) の例 :

<GB*****> CRTDT:20130820 RNWDT:20130924	
GMD: SMD: YEAR:2013 CNTRY:us TTL:eng	PUB : 出版に関する情報が適切にコンバートされていないため PUB フィールドがない。(2013 年以前に取り込まれた参照 MARC のレコード)
ISSN: NBN: LCCN:2012029338 NDLCN: REP	
VOL: pbk. ISBN: 9780810887220 PRICE: XI	
TR: Library services for multicultural patrons : strategies to encourage library use / edited by Carol Smallwood and Kim Becnel	
ED: Second edition	AACR2 と記述内容および表記に違いがある。
PHYS: xiii, 338 pages ; 23 cm	
(中略)	
NOTE: Includes bibliographical references and index	
AL: Smallwood, Carol, 1939- < >	
AL: Becnel, Kim < >	
CLS: LCC : Z711.8	
CLS: DC23 : 027.6/3	
SH: LCSH : Libraries and minorities // K	
SH: LCSH : Academic libraries -- Services to minorities // K	
SH: LCSH : Libraries and community // K	
REM: 001: 2012029338\$003:DLC\$005:20130913141954.0\$008:120130913141954.0\$2013 mdu b 001 0 eng \$010: ¥a 2012029338\$040: ¥aDLC¥beng¥cDLC¥erda¥dDLC\$042: ¥apcc\$050:00¥b.	本来、PUBに入るべき出版に関する情報が REMに入っている。(2013年以前に取り込まれた参照 MARC のレコード)
L5285 2013\$264: 1¥aLanham :¥bThe Scarecrow Press, Inc.,¥c2013,\$336: ¥atext¥2rda content\$337: ¥aunmediated¥2rdamedia\$338: ¥avolume¥2rdacarrier	

(NACSIS-CAT 担当)

参照ファイル追加 (イタリア, スペイン)

平成 26 年度より, NACSIS-CAT の外部参照ファイルとして, イタリア (Istituto Centrale per il Catalogo Unico) とスペイン (Biblioteca Nacional de España) を追加する予定です。利用可能な参照ファイル・データベース名は次のとおりです。

イタリア

参照ファイル・データベース名 (図書) : ITABKS

参照ファイル・データベース名 (雑誌) : ITASER

NCID プリフィックス (図書) : ITABKS

NCID プリフィックス (雑誌) : ITASER

内容 : 図書・雑誌目録のデータ

スペイン

参照ファイル・データベース名 (図書) : SPABKS

参照ファイル・データベース名 (雑誌) : SPASER

NCID プリフィックス (図書) : SPABKS

NCID プリフィックス (雑誌) : SPASER

内容 : 図書・雑誌目録のデータ

各々への目録システム間リンクのサービスは、平成26年6月に開始予定です。

(NACSIS-CAT 担当)

雑誌書誌に関する報告・情報源の送付について

雑誌書誌については、新規に書誌レコードを作成したり、既存の書誌レコードを修正した場合、またタイトル変遷関係について新しい事実を発見した場合は、国立情報学研究所に対して報告をする必要があります。また、書誌事項の確認のため、NII から情報源の送付を依頼することがあります。

情報源の送付や報告に際しては、以下に挙げる点に注意してください。

- ・報告先 : 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 NACSIS-CAT (雑誌) 担当
〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2
FAX : 03-4212-2382 E-mail : catserial@nii.ac.jp
※郵便, FAX, E-mail (情報源は添付ファイルとする) でご報告ください。

- ・報告時に送付するもの

- ① 報告内容についての説明, 報告者の連絡先等を明記してください。
- ② 書誌レコードの詳細表示画面の画面コピー, ハードコピー, 変遷注記用データシート等
新規作成 : 作成した書誌レコードの画面
書誌修正 : 修正前の画面と, 修正後の画面の両方を送付してください。
タイトル変遷 : 関連する書誌レコードの画面, 変遷注記用データシート
※変遷注記用データシートは, 以下の URL からダウンロードしてください。
URL : <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/pdf/sholdsheet04.xls>

- ③ 報告の根拠となった情報源
新規作成 : 書誌レコード作成時に使用した記述根拠号の規定の情報源箇所のコピー
等

書誌修正：修正する根拠となった巻号・情報源箇所のコピー等

タイトル変遷：タイトル変遷と考えた根拠となった情報源箇所のコピー等

変遷前誌・後誌の作成や修正を伴う場合にはそちらについても併せてご報告ください。

④ 情報源送付時の全般的な注意点

1. 情報源コピーは片面 A4 サイズとしてください。縮小・拡大により、文字の判別が難しくなる等の問題がある場合には、事前にご相談ください。メール添付で送付する場合は、A4 サイズの PDF ファイルにしてお送りください。
2. コピーによって、黒ずんだり、地色と紛れやすくなる等の恐れのある部分については、補記するなどの対応をお願いします。
3. 情報源上の表示を強調される場合は、マーカー等で塗りつぶすのではなく、アンダーライン等で表現してください。
4. コピーだけでは情報源箇所が不明確な場合には、表紙、標題紙、裏表紙、奥付、標題紙の裏、本文第一頁等のような、情報源箇所の名称をご記入ください。

なお、コーディングマニュアルの 6.0 通則 F〔報告〕および 7.0F も併せて参照してください。

(NACSIS-CAT 担当)

NII での目録品質管理(7)

目録品質管理の実際を紹介する第 7 回は、NACSIS-CAT での雑誌関係の事項についてご紹介いたします。

1) IDENT は電子ジャーナルのもの

最近、冊子（紙媒体）の資料の既存の書誌レコードの IDENT フィールドに URL が入力されているケースが目立っています。IDENT フィールドは、電子ジャーナルのアクセス先を記録するためのフィールドで、冊子（紙媒体）の資料には使用しませんのでご注意ください。冊子（紙媒体）の資料に対して、URL を記述したい場合は、NOTE フィールドに記述してください。

2) VLYR の修正もレコード調整の連絡を行います

雑誌書誌レコードにおいて、巻次・年月次は、その書誌レコードの範囲を特定するための重要な要素です。所蔵レコードの HLYR（所蔵年次）・HLV（所蔵巻次）で記録する範囲も、書誌レコードの VLYR フィールド（巻次・年月次）がもとになりますので、VLYR と HLYR・HLV の整合性は、利用面から見てもレコードの品質を左右します。

平成26年度のレコード調整連絡から、VLYRの修正報告(国立情報学研究所で内容の検証が済んだもの)についても、お送りする予定です。ただし、終刊や巻次変更が発生した場合を除きます。

ILLで利用する上でも、VLYRの範囲にあわせて所蔵レコードが適切に記述されていることは重要です。ご協力をお願いいたします。

3) E-mail や FAX 等でのお問い合わせ

NACSIS-CAT(雑誌)担当には、Q&A DB以外にもE-mailやFAX等で質問を寄せられることがあります。また、報告の送り状の☑要回答にチェックがあれば、質問として回答をお送りします。質問への対応を一元化するために、今後Q&Aシステム以外の方法で寄せられた質問にも、質問内容を転記して、Q&Aから回答いたします。質問をお受けし、Q&Aに登録した時点で受付のお知らせメールが送信されますが、ご了解くださいますようお願いいたします。(なお、受け付けた質問について、すべてを公開するものではありません。)

4) 最近の Q&A から：軽微な変化か重要な変化か

- ・ 本タイトルに含まれる団体名：『財団法人土佐山内家宝物資料館年報』→『公益財団法人土佐山内家宝物資料館年報』

コーディングマニュアルのタイトル変遷の項6.0.1, 7.0.1に、「本タイトルに含まれる団体の変化」は重要な変化(6.0.1 A1.1 (5), 7.0.1A1.1 (3))、「団体名の表記の変化」は軽微な変化(6.0.1 A1.2 (8), 7.0.1A1.2 (3))となっています。法人格を示す語が変わったことはどちらでしょう？このケースでは「土佐山内家宝物資料館」という団体自体は変わっていないわけですので、表記の変化と捉えることができます。タイトルは、情報源上に表示されている通り転記するのが原則で、出版者のように法人格を示す語を省略することはしません。その他のタイトル(VT:VT)として『土佐山内家宝物資料館年報』も記述しておきましょう。

- ・ 「他の語との関係が変化」って何？：『大阪市立大学学報. 号外』→『学報. 号外 / 大阪市立大学事務局【編】』

6.0.1 A1.2 (8)をもう少し詳しく見てみましょう。「本タイトルに含まれる団体名の表記に微細な変化、追加または削除があったり、他の語との関連が変化した場合は、軽微な変化とみなす」とあります。「他の語との関係が変化した」とは、この例のように、総称的タイトルと責任表示の関係が、タイトル中に団体名が含まれる関係に変化したことを意味します。このケースでは、より古い号が発見されたことによって、本タイトルを修正することになりましたので、NACSIS-CAT(雑誌)担当で書誌修正の上、レコード調整連絡にて所蔵館への連絡を行いました。

- ・ 語順の変化は軽微な変化？：『支援教育資料』→『教育支援資料』

「支援教育」が、「教育支援」に変わったことは、6.0.1 A1.1 (2)の「語順の変化がおこった場合は、重要な変化とみなす」に該当すると考えられます。6.0.1 A1.2 (4)の軽微とする「語順の変化」

は、続く条件をお見逃しなく。「語の追加または削除が主題の変化につながらない場合」また、「語順の変化、語の追加または削除は、名称が列記されている部分における変化の場合のみ」軽微な変化と判断します。例えば、『論集. ドイツ文学・フランス文学・ロシア文学』が『論集. フランス文学・ドイツ文学・ロシア文学』といった場合は軽微とみなします。

(NACSIS-CAT 担当)

総合目録データベース個別版サービスの窓口変更

平成 26 年 4 月から、以下のとおり、総合目録データベース個別版サービスの受付窓口を変更します。

提出先：国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 NACSIS-CAT 担当
〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

申請方法：「総合目録個別版提供申込書」（公印必要）を郵送で提出してください。

総合目録個別版提供申込書は、以下の URL からダウンロードしてご利用ください。

URL : <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/option/pdf/kobetu.doc>

なお、個別版データの提供には、申込書到着後、2 週間程度かかりますので、お申込みの際にはご注意ください。

(NACSIS-CAT 担当)

コーディングマニュアルの差し替え

本誌 36 号 (2012.12.25) の付録として添付したコーディングマニュアル付録 1.2 出版国コード表に、一部コードが記載されておりませんでした。お詫びして訂正いたします。

また、コーディングマニュアル 17.2.2 に誤植がありました (17.2.2 A の表中 繰り返し数)。改めて、本号に付録として、差し替え部分のコーディングマニュアルを添付します。

(NACSIS-CAT 担当)

ILL 文献複写等料金相殺サービス運営費の改定

消費税率の変更に伴い、平成 26 年度の ILL 文献複写等料金相殺サービスの運営費は、年 6,480 円となります。運営費は、毎年、第一四半期に支払いが発生しますので、第一四半期の「相殺結果通知書」にて、運営費を含めた相殺結果額をお知らせします。

(NACSIS-ILL 担当)

ILL 文献複写等料金相殺サービス処理報告

(平成 25 年度第 3 四半期)

ILL 文献複写等料金相殺サービスの処理状況は、以下のとおりです。

■ 平成 25 年度第 3 四半期 (平成 25 年 10 月～12 月)

- ・利用機関数：876
- ・処理対象 ILL レコード件数：186,996 (NACSIS-ILL 総レコード件数：206,048)

		対債務機関	対債権機関
機関数		374	502*
NII の請求額/支払額		19,445,676	▲19,375,666*
内 訳	相殺金額	19,437,770	▲19,437,770
	運営費 (税込)	9,450	6,300
	前期債権繰越額	▲1,544	▲3,008
	振込手数料	0	70,010

* 対債権機関の機関数, NII の支払額には次期繰越分(23 機関, 10,446 円)が含まれています。

(NACSIS-ILL 担当)

平成25年度学術情報システム総合ワークショップ（試行）実施報告

平成25年7月12日（金）～12月10日（火）の間、「デジタル化された資料の活用」をテーマに、国立情報学研究所において学術情報システム総合ワークショップ（試行）を開催しました。

平成25年度からの試行として、国立情報学研究所と大学図書館が連携・協力して解決しなければならない学術情報流通にかかる課題解決のために、学術情報システムに関する総合力を身につけることを目的としています。

受講者は、本年度のテーマに関して次のいずれかの個別テーマを選択し、各班ごとに実践的な調査・検討を行いました。

(1) デジタル化された資料の状況調査と組織化

(2) デジタル化資料のデータベース(NDL, HathiTrust等)と連携した検索環境整備

開催日程は以下のとおり、集合研修3回に加え、約5ヶ月間に亘り、各自の機関で研修課題に取り組みました。

集合研修では、講義・グループ討議・全体討議、自館における研修期間には、各班のテーマに沿った調査・検討作業を重ね、報告会では、その成果発表と講師も交えた全体討議を行い、実際のサービス改善につながるワークショップとなりました。

カリキュラム、講義資料、受講者の成果物等は、教育研修事業ウェブサイトで公開しています。

URL : <http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/ciws/>

◆ 開催日程

開催会場等	開催日
国立情報学研究所 [第1回：講義等]	25.7.12 (金)
各自の機関	25.7.16 (火) ～ 9.11 (水)
国立情報学研究所 [第2回：中間検討会]	25.9.12 (木) ～ 9.13 (金)
各自の機関	25.9.17 (火) ～ 12.9 (月)
国立情報学研究所 [第3回：報告会]	25.12.10 (火)

◆ 講義内容

月日	講義名	講師
7/12	ワークショップ趣旨説明	高橋 菜奈子 (国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課)
	デジタル化された資料をめぐる世界動向	佐藤 義則 (東北学院大学文学部教授)
9/12	NDLのデジタル化の現在 大規模デジタル化から震災アーカイブまで	塩崎 亮 (国立国会図書館電子情報部電子情報サービス課)
	NIIコンテンツシステムの現状と課題	大向 一輝 (国立情報学研究所コンテンツ科学研究系准教授)
	CiNii連携ツール紹介	前田 朗 (国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課)
	NIIコンテンツサービスアラカルト ～ NACSIS-CAT, ERDB, JAIRO Cloud, CiNii	吉田 幸苗, 木下 克之, 加藤 寛士, 白石 啓 (国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課)

9/13	電子ブック取り組み事例	入江 伸 (慶應義塾大学メディアセンター本部課長)
	古典資料のデジタル化取り組み事例	増井 ゆう子 (国文学研究資料館学術情報課課長補佐)
	人文・社会系研究者からみたデジタル化資料	杉 岳志 (一橋大学附属図書館研究開発室専門助手)

◆ 受講者一覧

班	成果物タイトル (テーマ)	受講者
1	発見性の低い無料デジタル化資料の傾向分析と発見性向上への提案 (デジタル化された資料の状況調査と組織化)	小島 由香 (名古屋大学)
		長屋 俊 (日本原子力研究開発機構)
		藤江 雄太郎 (大阪大学)
2	デジタル化資料のデータベース (NDL, HathiTrust等) と連携した検索環境整備	大西 賢人 (京都大学)
		柴田 育子 (一橋大学)
		鳥谷 和世 (神戸大学)

◆ 各班成果報告レポート

1班 発見性の低い無料デジタル化資料の傾向分析と発見性向上への提案 (文責: 小島, 長屋, 藤江)

私たちの班では、「無料公開のデジタル化資料のうち発見しづらいものの傾向を分析し、発見しやすくするような提案をする」というテーマを設定しました。「発見しづらいものの傾向を分析」するための材料として、NACSIS-ILL のログに注目することにしました。

ILL 業務の中で、受付館担当者がウェブ上で公開されているデジタル化資料を発見して、URL や提供元のサービス名を依頼館側に案内し、ILL を謝絶するというケースがあります。このようなケースは、「ある資料を必要としていて発見できなかったが、実はそれが無料デジタル化資料として公開されている」という情報探索行動と結果が分析可能なログとして残っている事例であり、「無料のデジタル化資料のうち発見しづらいもの」のサンプルとしてある程度有効ではないかと考えました。

調査材料として、NII から 2010 年度から 2012 年度の 3 年間の ILL ログの提供を受け、分析を行いました。謝絶コメントに案内されている URL を集計した結果、2012 年度は、NII・NDL・JST の各提供サイトおよびリポジトリの URL が全体の約 35%、大学等 (ドメインが ac.jp かつリポジトリを除く) の URL が約 25%、その他 URL が約 40% という結果になりました。このうち、その他 URL のおよそ 8 割は 3 年間のいずれの年度でも 3 回以下しか出現せず、ウェブ上のさまざまなサイトに無料公開のデジタル化資料が分散していることが改めて浮き彫りになりました。

また、全体の約 60% を占める、NII・NDL・JST の三機関とリポジトリおよび大学等のサイトの中には、複数のサイトでフルテキスト公開している、もしくはフルテキストへのリンクがある事例が多くありました。そのうち、NII・NDL・JST の運営サイトについて、無料デジタル化資料の書誌情報の相互提供関係 (フルテキストへのリンクを含む) を調査しました。その結果、書誌情報の相互提供はそれぞれ一部にとどまっており、各サイトで他機関のデジタル化資料の一部を検索することは可能ですが、すべてを検索することはできないことが明らかになりました。つまり三機関の無料デジタル化資料は、現状では、各サイトでそれぞれ検索する必要があるという

ことがわかりました。

まとめると、ILL 謝絶コメントで案内されている無料デジタル化資料の 60%程度は、NII・NDL・JST の三機関とリポジトリおよび大学等のサイトで公開されている資料であり、NDL Search・CiNii Articles・J-GLOBAL・J-STAGEに加え、検索エンジンで検索すれば、見つけることができる資料でした。このような発見しやすいと思われるデジタル化資料を探せなかった原因としては、NII・NDL・JST の三機関のデータベースの収録範囲の詳細を図書館員も含めた利用者がきちんと把握していないということも考えられます（提供元が収録範囲の詳細を明確に表示していないという事情もあります）。今後は、大手三機関および、リポジトリや大学等のサイト間で、フルテキストを含めた相互連携をさらに進めていくことが、発見性の向上を図る一つの解決方法といえます。

今回のワークショップでは、初対面の3人がグループを組んだという点、全3回の集合日以外は遠隔で協同調査をするという点、所属機関での通常業務を行いながらの調査活動であった点など多くの困難がありました。しかし、無料のデジタル化資料という、今日では“空気”のように存在しているものを直視して、5ヶ月間調査・議論し、理解を深めると同時に成果を残せたことは非常に有意義な経験となりました。

2班 デジタル化資料のデータベース (NDL Search, HathiTrust 等) と連携した検索環境整備 (文責：大西，柴田，鳥谷)

CiNii Books と NDL Search, HathiTrust 等のデジタル化資料 DB との連携の実現をめざし、2班では識別 ID による DB 間のリンクマップ作成へ向けた検討を行いました。書誌データとデジタル化資料をダイレクトに結び、安定的なリンク関係を保証する基盤としてリンクマップは必要との認識からです。具体的には以下の3点について調査を行いました。

(1) NDL を対象に JPNO をキーにしたリンクの可能性

NDLにつき、まずNC書誌データが保有するJPNOの正確性をサンプル調査で検証しました。NDL デジタル化対象年代のNC書誌(和書)のうち、JPNOを保有する書誌は約19%、JPNO500件のサンプル調査の結果ではその精度は約89.5%でした。また、そもそもNC書誌データにはJPNOをもたない書誌が多いため、JPNOを一括把握できるシンプルな手法はないか、サンプル調査で検証を行いました。NDL デジタル化データ(図書)500件の書誌情報からCiNii Booksを検索したところ、タイトルおよび出版年のand検索で、検索オプションによるもののNDL書誌の35%~50%について90%以上の精度でNC書誌に同定するという結果を得ました。

(2) ISSN, ISBN, LCCN, OCLC Control Number を利用した HathiTrust とのリンクの可能性

各種IDをキーにして、HathiTrustでパブリックドメインとして公開されているデジタル化資料のメタデータとNC書誌データの同定を行いました。その結果、NCIDとNCIDに対応するHathiTrust recordnumber、各種IDの組み合わせで、ISSNでは4,194件、ISBNでは1,779件、LCCNでは31,757件、OCLC Control Numberでは244件の書誌がリンク可能でした。タイトルや出版年を用いてOpenRefineで同定結果を検証したところ、ISBN、ISSNでの同定(70%~80%)はLCCNやOCLC Control Numberをキーにした場合(55%~72%)と比べて精度が高い、条件として出版年や単語N-gramを用いたタイトル分析を行うことでIDのみによる誤同定を除去することが可能という結果を得ました。

(3) ESTC 番号を利用した HathiTrust とのリンクの可能性

HathiTrust を対象としたリンクの可能性として、(2)とは別の識別子で調査を行いました。具体的には、NC 書誌の NOTE フィールドに記述されている ESTC (The English Short Title Catalogue) 番号をキーにして HathiTrust とリンク形成ができるかどうかを検証しました。検証方法には CiNii, WorldCat, HathiTrust の 3 つの API を用いました。NC 書誌のタイトルから API を使って関連する OCLC Control Number を取得し、その番号をキーに HathiTrust の API を使って、HathiTrust のメタデータを取得します。そのメタデータが元の NC 書誌に記述されている ESTC 番号とどのくらい合致するかを算出しました。結果、対象データ 2,539 件のうち ESTC 番号が一致するのは 18 件で、全体の 0.7%と精度が低く、ESTC 番号をキーにしたリンク形成は困難であろうと考えられます。

NC 書誌が保有する各種 ID は 100%正確というわけではなく、件数的にも必ずしも十分ではない状況ですが、リンク結果へのユーザー評価を動的に取り入れる仕組みをつくる、精度を低下させない範囲で情報の追加をはかる等、利用者側にもわかりやすい形でメンテナンスを行っていくことで、全体としての理解を得つつ利用者の利便性向上に資するリンクマップの作成は可能ではないかと考えています。

一連の調査やグループ内でのディスカッションを通じて、ネット空間での検索環境の基盤について改めて考える機会を得たことは非常に有意義な体験でした。また、調査にあたっては NII から各種データを提供頂くと同時に API を利用して直接各 DB からのデータ取得も試みました。そういった実際的な知識を試し、具体的な検証結果を残す機会に恵まれたことも本ワークショップ受講の意義の 1 つかと思えます。結果 CiNii をはじめとする国内外の様々な DB を客観的に眺める視点を身につけることができました。相応の負担はありましたが充足感の高い研修だったと感じています。

最後に、本ワークショップを受講する機会を与えていただいたことに謝意を表したいと思えます。

◆ 平成 26 年度のご案内 (予定)

平成 26 年度は、テーマを「学術情報サービスにおけるユーザー理解」とする予定です。

よりよい学術情報サービスを求めて、ユーザーの行動を分析することによって、サービス改善の提案ができるようになることを目的とします。具体的には主に CiNii を取り上げ、(1)利用者の行動観察、または、(2)利用ログの分析の観点から課題を設定し、調査と改善提案を行います。

本研修に係る詳細は、『平成 26 年度教育研修事業要綱』として、平成 26 年 4 月に各機関宛に冊子をお送りするとともに、下記ウェブサイトでもお知らせします。

URL : <http://www.nii.ac.jp/hrd/>

(教育研修事業担当)

平成 25 年度目録システム講習会の実施報告

平成 25 年度の目録システム講習会を、下記のとおり実施しました。

本講習会は、平成 20 年度より次の構成で実施しています。

- 1) 職場でのセルフラーニング (NACSIS-CAT/ILL セルフラーニング教材, および修得テストの履修)
- 2) 講習会場での集合研修 (講義・実習)

講習会名	回数		修了者数
目録システム講習会 (図書コース)	NII 会場	6 回	315 名
	地域会場	7 回	
目録システム講習会 (雑誌コース)	NII 会場	2 回	163 名
	地域会場	4 回	
計		19 回	478 名

平成 26 年度も、引き続き「職場でのセルフラーニング」と「講習会場での集合研修」をもって、講習会の課程を修了するものとします。受講者の所属機関においては、業務時間内でのセルフラーニング教材の視聴, および, 修得テストの受験について, ご配慮くださいますようお願いいたします。

なお, セルフラーニング教材はどなたでもご利用になれます。詳細については, 以下の教育研修事業ウェブサイトにてお知らせしています。

URL : <http://www.nii.ac.jp/hrd/>

平成 26 年度の講習会開催に係る情報は, 『平成 26 年度教育研修事業要綱』として, 平成 26 年 4 月に各機関宛に冊子をお送りするとともに, 上記ウェブサイトでもお知らせします。

(教育研修事業担当)

学術コンテンツ・ポータル (GeNii ジーニイ) の終了等

サービスの一部見直しについて

サービスの利用状況および昨今の学術情報流通環境を鑑み、平成 26 年 3 月から 4 月にかけて、下記のとおり現在提供しております学術コンテンツサービスを終了あるいは一部変更いたします。

今後は CiNii を中心に、より質の高い学術コンテンツサービスを提供していく所存です。あらかじめご承知おきくださいますよう、お願いいたします。

1) サービスの終了

対象サービス：GeNii (ジーニイ NII 学術コンテンツ・ポータル)

終了日時：平成 26 年 3 月 31 日 (月曜日) 17 時

2) 運営担当者の変更

対象サービス：Webcat Plus

変更内容：平成 26 年 3 月 31 日 (月) までは弊所学術基盤推進部 学術コンテンツ課にて、学術コンテンツサービス事業として運営いたしますが、平成 26 年 4 月 1 日 (火) 以降は、弊所の研究事業として運営いたします。平成 26 年 4 月 1 日 (火) 以降の Webcat Plus に関するお問い合わせは、Webcat Plus 「ご感想・データ不具合のご連絡フォーム」よりご連絡ください。

3) URL の変更

対象サービス：オンライン学術用語集 (Sciterm)

変更内容：ソフトウェア不具合のためサービスを停止していましたが、平成 26 年 3 月中旬に、学術研究データベース・リポジトリ (NII-DBR <http://dbr.nii.ac.jp/>) 上でサービスを再開いたします。

*以下の学術コンテンツサービスはこれまでと同様にサービスを行います。

CiNii Articles (<http://ci.nii.ac.jp>) - 日本の論文をさがす

CiNii Books (<http://ci.nii.ac.jp/books/>) - 大学図書館の本をさがす

KAKEN (<http://kaken.nii.ac.jp>) - 科学研究費助成事業データベース

JAIRO (<http://jairo.nii.ac.jp>) - 学術機関リポジトリポータル

(学術コンテンツ課)

付録 1. 2 出版国コード表

〔コード表〕

以下では、国名・地域名の英語形アルファベット順に出版国コードを示す。

コード	国名・地域名
a f	Afghanistan (アフガニスタン)
a a	Albania (アルバニア)
a e	Algeria (アルジェリア)
a s	American Samoa (米領サモア)
a n	Andorra (アンドラ)
a o	Angola (アンゴラ)
a m	Anguilla (アンギラ)
a y	Antarctica (南極地域)
a q	Antigua and Barbuda (アンチグア・バーブーダ)
a g	Argentina (アルゼンチン)
a i	Armenia (アルメニア共和国)
a w	Aruba (アルバ)
a t	Australia (オーストラリア)
a u	Austria (オーストリア)
a j	Azerbaijan (アゼルバイジャン共和国)
b f	Bahamas (バハマ)
b a	Bahrain (バーレーン)
b g	Bangladesh (バングラデシュ)
b b	Barbados (バルバドス)
b w	Belarus (ベラルーシ共和国)
b e	Belgium (ベルギー)
b h	Belize (ベリーズ)
d m	Benin (ベナン)
b m	Bermuda Islands (バーミューダ諸島)
b t	Bhutan (ブータン)
b o	Bolivia (ボリビア)
b n	Bosnia and Hercegovina (ボスニア・ヘルツェゴビナ)
b s	Botswana (ボツワナ)
b v	Bouvet Island (ブーベ島)
b l	Brazil (ブラジル)
b i	British Indian Ocean Territory (英領インド洋地域)
v b	British Virgin Islands (英領ヴァージン諸島)
b x	Brunei (ブルネイ)

〔コード表〕 (続)

コード	国名・地域名
b u	Bulgaria (ブルガリア)
u v	Burkina Faso (ブルキナファソ)
b r	Burma (ビルマ)
b d	Burundi (ブルンジ)
c b	Cambodia (カンボジア)
c m	Cameroon (カメルーン)
c n	Canada (カナダ)
c v	Cape Verde (カーボベルデ)
c a	Caribbean Netherlands (オランダカリブ領域)
c j	Cayman Islands (ケイマン諸島)
c x	Central African Republic (中央アフリカ)
c d	Chad (チャド)
c l	Chile (チリ)
c c	China (中華人民共和国)
x a	Christmas Island (クリスマス島)
x b	Cocos Islands (ココス諸島)
c k	Colombia (コロンビア)
c q	Comoros (コモロ)
c f	Congo (Brazzaville) (コンゴ共和国)
c g	Congo (Democratic Republic) (コンゴ民主共和国)
c w	Cook Islands (クック諸島)
c r	Costa Rica (コスタリカ)
c i	Croatia (クロアチア)
c u	Cuba (キューバ)
c o	Curaçao (キュラソー)
c y	Cyprus (キプロス)
x r	Czech Republic (チェコ)
d k	Denmark (デンマーク)
f t	Djibouti (ジブチ)
d q	Dominica (ドミニカ国)
d r	Dominican Republic (ドミニカ共和国)
e m	East Timor (東チモール)
e c	Ecuador (エクアドル)
u a	Egypt (エジプト)
e s	El Salvador (エルサルバドル)
e g	Equatorial Guinea (赤道ギニア)
e a	Eritrea (エリトリア)
e r	Estonia (エストニア共和国)
e t	Ethiopia (エチオピア)

〔コード表〕 (続)

コード	国名・地域名
f k	Falkland Islands (フォークランド諸島)
f a	Faroe Islands (フェロー諸島)
f j	Fiji (フィジー)
f i	Finland (フィンランド)
f r	France (フランス)
f g	French Guiana (仏領ギアナ)
f p	French Polynesia (仏領ポリネシア)
g o	Gabon (ガボン)
g m	Gambia (ガンビア)
g z	Gaza Strip (ガザ地帯)
g s	Georgia (Republic) (グルジア共和国)
g w	Germany (ドイツ=ドイツ連邦共和国)
g h	Ghana (ガーナ)
g i	Gibraltar (ジブラルタル)
g r	Greece (ギリシャ)
g l	Greenland (グリーンランド)
g d	Grenada (グレナダ)
g p	Guadeloupe (グアドループ島)
g u	Guam (グアム)
g t	Guatemala (グアテマラ)
g v	Guinea (ギニア)
p g	Guinea-Bissau (ギニアビサオ)
g y	Guyana (ガイアナ)
h t	Haiti (ハイチ)
h m	Heard and McDonald Islands (ヘアド島・マクドナルド島)
h o	Honduras (ホンジュラス)
h u	Hungary (ハンガリー)
i c	Iceland (アイスランド)
i i	India (インド)
i o	Indonesia (インドネシア)
i r	Iran (イラン)
i q	Iraq (イラク)
i y	Iraq-Saudi Arabia Neutral Zone (イラク-サウジアラビア中立地帯)
i e	Ireland (アイルランド)
i s	Israel (イスラエル)

〔コード表〕 (続)

コード	国名・地域名
i t	Italy (イタリア)
i v	Côte d'Ivoire (コートジボワール)
j m	Jamaica (ジャマイカ)
j a	Japan (日本)
j i	Johnston Atoll (ジョンストン・アトール)
j o	Jordan (ヨルダン)
k z	Kazakhstan (カザフ共和国)
k e	Kenya (ケニア)
g b	Kiribati (キリバス)
k n	Korea (North) (北朝鮮=朝鮮民主主義人民共和国)
k o	Korea (South) (大韓民国)
k v	Kosovo (コソボ)
k u	Kuwait (クウェート)
k g	Kyrgyzstan (キルギス共和国)
l s	Laos (ラオス)
l v	Latvia (ラトビア共和国)
l e	Lebanon (レバノン)
l o	Lesotho (レソト)
l b	Liberia (リベリア)
l y	Libya (リビア)
l h	Liechtenstein (リヒテンシュタイン)
l i	Lithuania (リトアニア共和国)
l u	Luxembourg (ルクセンブルク)
x n	Macedonia (マケドニア)
m g	Madagascar (マダガスカル)
m w	Malawi (マラウイ)
m y	Malaysia (マレーシア)
x c	Maldives (モルジブ)
m l	Mali (マリ)
m m	Malta (マルタ)
x e	Marshall Islands (マーシャル諸島)
m q	Martinique (マルチニーク島)
m u	Mauritania (モーリタニア)
m f	Mauritius (モーリシャス)
o t	Mayotte (マイヨット島)

〔コード表〕 (続)

コード	国名・地域名
m x	Mexico (メキシコ)
f m	Micronesia (Federated States) (ミクロネシア連邦)
x f	Midway Islands (ミッドウェー諸島)
m v	Moldova (モルドバ共和国)
m c	Monaco (モナコ)
m p	Mongolia (モンゴル)
m o	Montenegro (モンテネグロ)
m j	Montserrat (モントセラト)
m r	Morocco (モロッコ)
m z	Mozambique (モザンビーク)
s x	Namibia (ナミビア)
n u	Nauru (ナウル)
n p	Nepal (ネパール)
n e	Netherlands (オランダ)
n l	New Caledonia (ニューカレドニア)
n z	New Zealand (ニュージーランド)
n q	Nicaragua (ニカラグア)
n g	Niger (ニジェール)
n r	Nigeria (ナイジェリア)
x h	Niue (ニウエ)
n x	Norfolk Island (ノーフォーク島)
n w	Northern Mariana Islands (北マリアナ連邦)
n o	Norway (ノルウェー)
m k	Oman (オマーン)
p k	Pakistan (パキスタン)
p w	Palau (パラオ)
p n	Panama (パナマ)
p p	Papua New Guinea (パプア・ニューギニア)
p f	Paracel Islands
p y	Paraguay (パラグアイ)
p e	Peru (ペルー)
p h	Philippines (フィリピン)
p c	Pitcairn Island (ピトケアン島)
p l	Poland (ポーランド)
p o	Portugal (ポルトガル)
p r	Puerto Rico (プエルトリコ)

〔コード表〕 (続)

コード	国名・地域名
q a	Qatar (カタール)
r e	Réunion (レユニオン)
r m	Romania (ルーマニア)
r u	Russia (Federation) (ロシア連邦)
r w	Rwanda (ルワンダ)
s c	Saint-Barthélemy (サン・バルテルミー)
x j	Saint Helena (セントヘレナ島)
x d	Saint Kitts-Nevis (セントクリストファー・ネビス)
x k	Saint Lucia (セントルシア)
s t	Saint-Martin (サン・マルタン)
x l	Saint Pierre and Miquelon (サンピエール島・ミクロン島)
x m	Saint Vincent and the Grenadines (セントビンセント・グレナディーン)
w s	Samoa (サモア独立国)
s m	San Marino (サンマリノ)
s f	Sao Tome and Principe (サントメ・プリンシペ)
s u	Saudi Arabia (サウジアラビア)
s g	Senegal (セネガル)
r b	Serbia (セルビア)
s e	Seychelles (セイシェル)
s l	Sierra Leone (シエラレオネ)
s i	Singapore (シンガポール)
s n	Sint Maarten (シント・マルテン)
x o	Slovakia (スロバキア)
x v	Slovenia (スロベニア)
b p	Solomon Islands (ソロモン諸島)
s o	Somalia (ソマリア)
s a	South Africa (南アフリカ共和国)
x s	South Georgia and the South Sandwich Islands (南ジョージア・南サンドウィッチ諸島)
s d	South Sudan (南スーダン)
s p	Spain (スペイン)
s h	Spanish North Africa (西領北アフリカ)
x p	Spratly Island
c e	Sri Lanka (スリランカ)
s j	Sudan (スーダン)
s r	Surinam (スリナム)
s q	Swaziland (スワジランド)
s w	Sweden (スウェーデン)
s z	Switzerland (スイス)
s y	Syria (シリア)

〔コード表〕 (続)

コード	国名・地域名
c h	Taiwan (台湾)
t a	Tajikistan (タジク共和国)
t z	Tanzania (タンザニア)
f s	Terres australes et antarctiques francaises (仏領諸島)
t h	Thailand (タイ)
t g	Togo (トーゴ)
t l	Tokelau (トケラウ)
t o	Tonga (トンガ)
t r	Trinidad and Tobago (トリニダード・トバゴ)
t i	Tunisia (チュニジア)
t u	Turkey (トルコ)
t k	Turkmenistan (トウルクメン共和国)
t c	Turks and Caicos Islands (タークス諸島・カイコス諸島)
t v	Tuvalu (ツバル)
u g	Uganda (ウガンダ)
u n	Ukraine (ウクライナ共和国)
t s	United Arab Emirates (アラブ首長国連邦)
u k	United Kingdom (イギリス)
u s	United States (アメリカ合衆国)
u c	United States Miscellaneous Caribbean Islands (米領カリブ海諸島)
u p	United States Miscellaneous Pacific Islands (米領太平洋諸島)
u y	Uruguay (ウルグアイ)
u z	Uzbekistan (ウズベク)
n n	Vanuatu (バヌアツ)
v c	Vatican City (バチカン市国)
v e	Venezuela (ベネズエラ)
v m	Vietnam (ベトナム)
v i	Virgin Islands of United States (米領ヴァージン諸島)
w k	Wake Island (ウェーク島)
w f	Wallis and Futuna (ワリス諸島)
w j	West Bank of the Jordan River (ヨルダン川西岸)
s s	Western Sahara (西サハラ)
y e	Yemen (イエメン)

〔コード表〕 (続)

コード	国名・地域名
z a	Zambia (ザンビア)
r h	Zimbabwe (ジンバブエ)
v p	[v. p.]
x x	[出版地不明] 又は [s. l.]

《注意事項》

本表に挙げた国名・地域名の英語形及びコードは、「*MARC21 Code List for Countries*」に準拠している。ただし、次に挙げる4ヶ国に対応するコードのみ、同リストとは異なる。

- 1) Canada (カナダ)
- 2) United Kingdom (イギリス)
- 3) United States (アメリカ合衆国)
- 4) Australia (オーストラリア)

丸括弧中に示した日本語形は、「世界の国一覧表」等による。

国名・地域名間の参照関係等については、「*MARC21 Code List for Countries*」を参照のこと。例えば、ベトナムに関しては、次のような参照関係がある。

Democratic People's Republic of Vietnam	→ Vietnam (コード「v m」)
North Vietnam	→ Vietnam (コード「v m」)
South Vietnam	→ Vietnam (コード「v m」)
Vietnam, North	→ Vietnam (コード「v m」)
Vietnam, Republic of	→ Vietnam (コード「v m」)
Vietnam, South	→ Vietnam (コード「v m」)

出版地・頒布地等においては、現在「[v. p.]」という略語は使用しない。従って、[v. p.]に対応するコード「v p」は、使用不可能である。

コード「x x」は、最初の出版地・頒布地等に「[出版地不明]」又は「[s. l.]」という略語を記録する場合にのみ使用可能である。

17.2.2 H L V

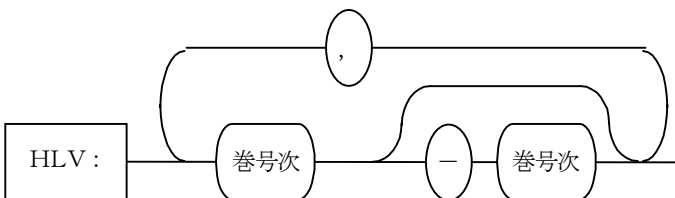
17.2.2A [形式]

HLV	入力レベル	属性	フィールド長	繰り返し数
所蔵巻次データ	必須1	可変長	4000バイト	4

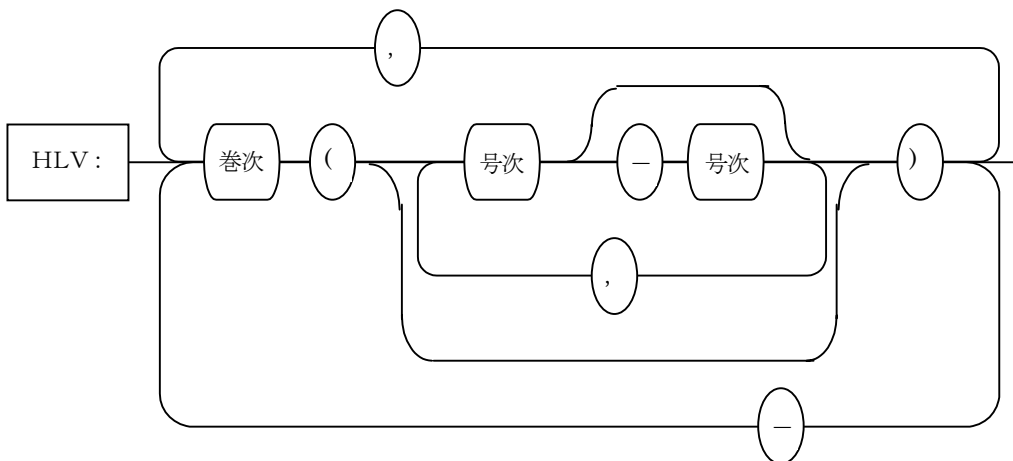
変更

17.2.2B [記述文法]

- 1) 巻（又は号）のみの場合

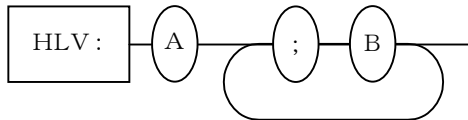


- 2) 不完全巻の表示 [この前後に①の記述文法が続くことがある]



17.2.2 B [記述文法] (続)

3) 巻次変更がある場合 [A, Bの部分の記述文法は, 1)又は2)の全体である]



17.2.2 C [フィールド内容とデータ要素]

HLVフィールドには, 実際に所蔵する資料の巻次をデータ要素として記録する。

17.2.2 D [データ記入及び記入例]

D 1

所蔵する最初の号から最新の号までの巻次を記入する。

D 2

実際に所蔵している号の巻次を小さいものから大きいものへと排列し, 欠号は記入しない。

D 3

巻次の表現方式は, 当該書誌のV L Y Rフィールドで採用した表現方式に対応させる。

D 4

所蔵範囲内で巻次変更がある場合は, 巻次変更の位置にセミコロン「;」を挿入し, 当初の巻次表示をとっていた期間での所蔵巻次データと, 新方式の巻次表示方式による期間での所蔵巻次データを列記する。

VLYR:1号(1980)-5号(1984);1985年版(1985)-

HLV:2-5;1985-1991

(巻次変更前の2号から5号, さらに巻次変更後の1985年版から1991年版を所蔵している場合)

D 5

巻次変更のセミコロンの位置は, 当該書誌のV L Y Rフィールドでの位置と対応させる。ただし, 所蔵範囲外での巻次変更の事実については記入しない。



国立情報学研究所 目録所在情報サービス

NACSIS-CAT
NACSIS-ILL